

序

奈良盆地の北端に位置する平城京は南北約 5 km、東西約 6 kmにも及ぶ広大なもので、わが古代律令国家のシンボルともいうべき巨大な都市であります。その中心である平城宮については国有地化が図られ、年々発掘調査によってその内容が次第に判明されつつあります。京域に関しても、開発が進むにつれ保存・記録措置を講ずるための事前発掘調査を行う機会が増加し、ほぼ全域に貴重な平城京の遺構の存在することが明らかとなってきました。

今回、植田商事株式会社が社屋及び倉庫の新築を計画した地は平城京左京四条二坊一坪にあたり、重要な遺構の存在が予想されたため、建設工事に先立って奈良国立文化財研究所に依頼して発掘調査を実施するはこびとなりました。その結果、本書に示されておりますような貴重な資料を得ることができました。

本書が今後の平城京域の保護・研究、ひいては古代史研究の一助ともなりえれば望外の喜びと存じます。

最後になりましたが、本調査を担当いただきました奈良国立文化財研究所の関係各位の労苦に対して厚く感謝申し上げます。

昭和59年 3月31日

奈良県教育委員会
教育長 大島 寛